平成29年度「通信エキスパート研修」実施計画

1　災害医療救護通信エキスパート育成事業とは

災害医療救護通信エキスパート育成事業に係る研修・訓練等（以下、「通信エキスパート研修」という。）は、首都直下地震、南海トラフ地震等の大規模災害時において、国民の生命・身体を守るために行われる医療・救護活動等を円滑に行うために必要とされる情報伝達の手段として使用される衛星携帯電話及び衛星データ通信をはじめとする各種無線機器等を適正かつ有効に取り扱うことができる人材を育成し、災害医療・救護活動等の維持を図り、被災者の医療活動等の支援に寄与することを目的とする総務省「医療・救護活動等の非常用通信システムの適正な利用人材育成事業」として、平成２９年度から「災害医療救護通信エキスパート育成協議会（会長：相田仁東京大学工学系研究科教授）」が実施するものです。

2　レベル別の研修･訓練等の日程

通信エキスパート研修は、上級レベル、標準レベル及び基礎レベルの３区分とし、上級レベル及び標準レベル研修の修了者には認定証及び記章を交付します。また、基礎レベル研修の修了者には、修了証を交付します。

それぞれの日程及び会場は次のとおりです。なお、当該研修の受講料は無料です。

（１）上級レベル

実施日	会場	募集数
平成29年11月　3日～　4日	(東京都江東区)東京臨海広域防災公園	20名
平成30年　1月20日～21日	(神戸市)神戸国際会議場	20名
平成30年　2月10日～11日	(仙台市)東北大学防災科学国際研究所	20名

（目標）↓

衛星データ通信機器等の設営･メンテナンス及び操作の指導ができるレベルを目標とし、非常用通信手段の適正利用を実現する上で必要となる高度な知識及び技能（標準レベルや基礎レベルでの指導が可能となる程度）を習得する。

（２）標準レベル

実施日	会場	募集数
平成29年11月　4日	(江東区)東京臨海広域防災公園	30名
平成29年12月　2日～　3日	(津市)三重県総合文化センター	30名
平成29年12月10日	(盛岡市)アイーナいわて県民情報交流センター	30名
平成29年12月16日～17日	(静岡市)静岡コンベンションアーツセンター･グランシップ	30名
平成30年　1月14日	(高知市)CHRESサンピアセリーズ	30名
平成30年　1月27日～28日	(北九州市)産業医科大学	30名
平成30年　2月17日～18日	(日向市)日向商工会議所	30名
平成30年　3月　3日～　4日	(和歌山市)和歌山ビック愛	30名

（目標）↓

衛星携帯電話等の機器を適正に操作･使用できるレベルを目標とし、非常用通信手段の適正利用を実現する上で必要となる知識及び技能（基礎レベルでの指導が可能となる程度）を習得する。

（３）基礎レベル

実施日	会場	募集数
平成29年11月　3日～　4日	(江東区)東京臨海広域防災公園	120名
平成29年12月　2日～　3日	(津市)三重県総合文化センター	120名
平成29年12月10日	(盛岡市)アイーナいわて県民情報交流センター	120名
平成29年12月16日～17日	(静岡市)静岡コンベンションアーツセンター・グランシップ	120名
平成30年　1月13日～14日	(高知市)CHRESサンピアセリーズ	120名
平成30年　1月20日～21日	(神戸市)神戸国際会議場	120名
平成30年　1月27日～28日	(北九州市)産業医科大学	120名
平成30年　2月10日～11日	(仙台市)東北大学災害科学国際研究所	120名
平成30年　2月17日～18日	(日向市)日向商工会議所	120名
平成30年　3月　3日～　4日	(和歌山市)和歌山ビック愛	120名

（目標）↓

衛星携帯電話等と携帯電話等との違いを理解することができるレベルを目標とし、非常用通信手段の適正利用を実現する上で必要となる基礎的な知識を習得する。

3　受講科目、受講時間、受講資格

（１）受講科目及び受講時間

受講区分	種別及び受講時間		受講内容
上級レベル	座学	1時間	○非常災害時の通信確保の必要性・重要性 ○災害医療・救護活動における非常用通信手段に関するガイドライン ○非常用通信手段の種類と特徴、メリット・デメリット ○電波法制、電波システムの適正利用 ○機器の管理方法等
	実技	5時間	○衛星データ通信(可搬型VSAT等)の設置・操作、ＰＣネット接続(Wi-Fiの設定を含む)及びアプリ操作(ログインまで) ○衛星携帯電話、デジタル簡易無線及びデジタルMCA無線の設定、通信操作の確認
	能力認定試験	30分程度	○座学及び実技のそれぞれについて、その理解度、熟度を試験によって確認（認定）
標準レベル	座学	1時間	○上級レベルの内容についての基本的知識
	実技	3時間	○衛星携帯電話の設定・通信操作 ○衛星データ通信(可搬型VSAT等)の操作、ネット接続、及びアプリ操作（ログインまで） ○デジタル簡易無線及びデジタルMCA無線の設定、通信操作の確認
	能力認定試験	30分程度	○座学及び実技のそれぞれについて、その理解度、熟度を試験によって確認（認定）
基礎レベル	体験型	2時間	○上級レベル又は標準レベルの実技で使用する無線通信機器等の展示、説明、相談 ○無線通信機器の通信操作等の体験

＊受講時間は目安であり、研修状況等に応じて若干延長することがある。
＊上級及び標準レベルの実技に関する能力認定試験は、実技研修中に実施する。

（２）受講資格

受講区分	受講資格
上級レベル	○DMAT、JMAT、DPAT、日赤救護班等で、災害医療に1年以上の業務経歴を有する者 ○日本集団災害医学会認定災害医療ロジスティクス要員（仮称）として認定された者 ○地方公共団体（保健所を含む。）において、災害医療や防災・非常通信等の関係部署に属する者 ○医療関係者等であって、上記と同等の知識を有する者 ○第二級陸上特殊無線技士国家資格を有する者、又は第三級陸上特殊無線技士国家資格を有し、1年以上の業務経歴を有する者
標準レベル	○医療関係者等であって1年以上の業務経歴を有する者、又は同等の知識を有する者 ○地方公共団体（保健所を含む。）において、災害医療や防災・非常通信等の関係部署に属する者 ○第三級陸上特殊無線技士国家資格を有する者
基礎レベル	○医療機関等で災害医療・救護活動に関係する者、又は地方公共団体（保健所を含む。）において、災害医療や防災・非常通信等の関係部署に属する者

4　受講の申込期間、方法

（１）申込期間とその方法

○申込は、各受講日の概ね２か月前から受付を開始し、定員になり次第、受付を終了します。

○受講者は会場毎に募集します。申込期間前に会場別の受講申込案内を対象機関に送付しますので、受講申込書に必要な事項を記載し、インターネット又はファックスで事務局に提出して下さい。

○申込期間を過ぎてからの受付は原則行いませんのでご注意下さい。

○本協議会は受講者を決定し、全ての申込者に対して受講の可否を通知します。

（２）提出書類

関係機関等に対し、会場別の募集要項を申込期間前までにインターネット経由で通知しますので、添付ファイルから申込用紙をダウンロードして使用して下さい。

（３）提出先

提出方法	申込先メールアドレス/ファックス番号
インターネット経由	act@dcome0929.onmicrosoft.com
ファックス経由	0225-92-8382

5 留意事項

○受講区分のうち、標準レベルの受講者は、原則として、各会場の所在する都道府県内等の医療機関等の関係者が対象となりますので、各会場の募集案内をご確認ください。

○受講決定後、やむを得ない事情により受講できなくなった場合は、早期の連絡（070-1002-9607）をお願いします。

○講習会場に駐車場はありませんので、可能な限り公共交通機関をご利用下さい。

○公益財団法人日本無線協会は、個人情報を含む申込書を他の目的に使用することはありません。

〔お問い合わせ先〕
災害医療救護通信エキスパート育成協議会 事務局
公益財団法人日本無線協会 企画室
TEL：03－3533－5686　　E-mail； kikaku1@nichimu.or.jp
〒104－0053 東京都中央区晴海三丁目3番3号